

# 診 断 し が

2007年秋号

NO. 21

## 目 次

### 研究会報告

「滋賀県観光産業の課題と成長への提言」 下村 裕彦

### コンサル法人・創業10周年の感懐

「創業10周年の感懐“不傷肩背不能成善賈”」 豊島 正利

### お知らせ

「中小企業経営診断シンポジウム」 (社) 中小企業診断協会

「会員の消息」

社団法人 中小企業診断協会 滋賀県支部

## プロフィール

中小企業診断士 下村 裕彦

京都産業大学経済学部卒業後、長浜信用金庫に入庫。平成 15 年 10 月より中小企業総合事業団（現中小企業基盤整備機構）中小企業大学校に派遣され、1 年の研修期間を経て中小企業診断士の資格を取得。その後、融資管理部に配属となり取引先中小企業の経営支援を担当。現在は営業統括部長として営業推進および営業企画業務等に従事。



滋賀県は琵琶湖を初めとする風光明媚な山々等自然環境に恵まれ、近畿圏の中でも特に多彩な観光資源に恵まれた地域であると言えるが、観光客の入込客数調査を見るとその伸びは 5 年間決して増加傾向を示していない。このことに着目し、有数の観光資源に恵まれている県内観光産業の更なる活性化によって、資源の有効活用、もって県内経済総生産向上に寄与できないかに立脚し、現状分析から観光産業活性化への提言迄をまとめた。イメージ分析、公表調査報告データの分析、事業者アンケートおよび S W O T 分析（強み、弱み分析）等調査分析手法を広範囲に活用、効果的な提言に繋がることを意図している。

### (1) 観光資源のイメージ分析

滋賀県の観光資源というテーマを調査・研究するにあたり、近隣府県との比較で相対的なポジションはどのような位置づけにあるかを探ることは、滋賀県観光の活性化、提言のため重要と考え、滋賀県および近隣府県の診断士等に観光資源に対するイメージをアンケート調査した。その結果、兵庫県が最も評価が高く、滋賀県は京都府、大阪府に次ぐ第 4 位であった。

滋賀県における観光イメージ  
(滋賀県居住者)

順位	都道府県	1人当り平均点	順位	都道府県	1人当り平均点
			6	福井県	3.0
			7	和歌山県	3.0
1	兵庫県	3.6	8	奈良県	2.9
2	京都府	3.5	9	岐阜県	2.8
3	大阪府	3.4			
4	滋賀県	3.3	8名中7名が兵庫県を1位に指名		
5	三重県	3.2			

滋賀県における観光イメージ  
(他府県居住者)

順位	都道府県	1人当り平均点	順位	都道府県	1人当り平均点
			6	和歌山県	3.0
			7	三重県	3.0
1	兵庫県	3.6	8	奈良県	2.9
2	京都府	3.4	9	岐阜県	2.8
3	大阪府	3.3			
4	滋賀県	3.3	9県より43名のアンケートを回収		
5	福井県	3.0			

### (2) 事業者アンケート

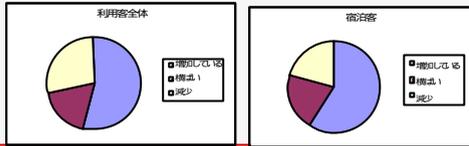
滋賀県内の主な旅館・ホテル 63 施設に対して、旅館・ホテルの利用状況、および地域の観光資源との連携や対策などを調査した。

5 年前と現在の施設利用者、観光客の推移変化を質問では回答の半数以上が利用者、宿泊客共に「増加をしている」との結果であり、来県目的にもよると思われるが最近の好ましい状態が示されている。また、宿泊施設として地域、活動と積極的に行われる連携についての回答では、県内および京都にある社寺・文化施設等との連携回答が多く、案内、パンフレットを配布し積極的な活動が伺えるとともに若

年層向けの夏、冬各種スポーツ、レクリエーション等の取り組みにも積極的な姿勢が伺える。

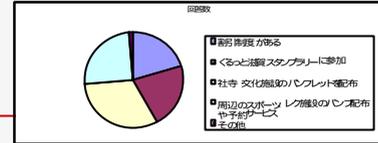
### 5年前との変化

利用客変化	増加している	横ばい	減少
利用客全体	//// // // //	////	//// //
宿泊客	//// // // //	////	//// //
比率	56%	19%	25%



### 宿泊施設と他の観光資源との連携

観光資源との連携内容	回答数
割引制度がある	//// // //
ぐるっと滋賀スタンプラリーに参加	//// // // //
社寺・文化施設のパンフレットを配布	//// // // //
周辺のスポーツ、レク施設のパンフ配布や予約サービス	//// // // //
その他	/



### (3) 観光入込客統計調査結果の分析と課題

この5年間の推移を見ると幾分変化はあるものの延観光客の増減はほとんどない。しかし、宿泊客については減少傾向を示し、平成17年には5年前より5.7%の減少が見られる。また、相対的に日帰り客が圧倒的に多く、宿泊客が10%にも満たない状況にある。

一方季節性では、琵琶湖を抱えやはり夏場に多い特徴があるが、年々そのウエイトは低下し、通年観光の様相傾向を示してきているものの、冬場の観光客数は低位平衡状態にある。

さらに、地域別観光客の延客数では大津・志賀地域が最も多く、湖北地域が次に多い。しかし、5年間の推移で見ると、観光客の多い大津・志賀が減少傾向を示しているのに対し、東近江の増加傾向が著しい。

### 滋賀県の観光入込客の推移

客層	単位(千人)					
	13年	14年	15年	16年	17年	17/13年比
日帰り客数	40,797 92.7%	40,824 92.7%	39,310 92.9%	40,676 93.0%	40,105 93.0%	0.99
宿泊客	3,197 7.3%	3,168 7.3%	2,981 7.1%	3,005 7.0%	3,013 7.0%	0.94
延客数合計	43,994 100%	43,993 100%	42,292 100%	43,681 100%	43,119 100%	0.98

### 季節別観光客数の推移

季節	単位(千人)					
	13年	14年	15年	16年	17年	17/13年比
春 3-5月	10,901 25%	11,325 26%	10,666 25%	11,388 26%	11,368 26%	1.04
夏 6-8月	13,229 30%	12,859 29%	11,876 28%	11,841 27%	11,912 28%	0.90
秋 9-11月	11,693 26%	11,594 26%	11,714 28%	11,491 26%	11,672 27%	1.00
冬 12-2月	8,170 19%	8,213 19%	8,035 19%	8,960 21%	8,165 19%	1.00

### 地域別観光の延客数の推移

地域	単位(千人)					
	13年	14年	15年	16年	17年	17/13年比
大津 志賀	13,198 30%	11,849 27%	11,256 27%	11,042 25%	10,696 25%	0.81
湖南	4,603 10%	4,923 11%	4,760 11%	4,771 11%	4,322 10%	0.94
甲賀	3,425 8%	3,431 8%	3,306 8%	3,598 8%	3,182 7%	0.93
東近江	5,396 12%	5,465 12%	5,308 12%	6,539 15%	7,432 17%	1.38
湖東	6,101 14%	6,047 14%	5,660 13%	5,702 13%	5,017 12%	0.82
湖北	8,566 20%	9,427 21%	9,180 22%	9,169 21%	9,160 21%	1.07
湖西	2,702 6%	2,848 7%	2,818 7%	2,858 7%	3,306 8%	1.22

### 地域別観光の宿泊者数の推移

地域	単位(千人)					
	13年	14年	15年	16年	17年	17/13年比
大津・ 志賀	1,521 (48%)	1,456 (46%)	1,289 (43%)	1,288 (43%)	1,248 (41%)	0.82
湖南	257(8%)	250(8%)	235(8%)	267(9%)	268(9%)	1.04
甲賀	45(1%)	63(2%)	80(3%)	70(2%)	90(3%)	2.00
東近江	259(8%)	248(8%)	259(9%)	260(9%)	259(9%)	1.00
湖東	233(7%)	227(7%)	216(7%)	212(7%)	219(7%)	0.94
湖北	561(18%)	605(19%)	588(20%)	591(20%)	597(20%)	1.06
湖西	318(10%)	317(10%)	313(10%)	315(10%)	329(11%)	1.03
合計	3,197	3,168	2,981	3,005	3,013	0.94

以上から課題を探ると、次の5つがあげられる。

圧倒的に多い日帰り観光入り数(93%)、および宿泊観光客の減少に歯止めをかける観光資源の活用と新規増加施策が課題

数年間の観光客入り数伸びが停滞していることへの新たな滋賀県の観光資源の魅力化施策

季節的には冬期の入り数が少なく、夏季中心である現状から、四季を通じた増加施策が課題

スポーツ、レクリエーションに関わる観光客の増加施策が課題

地域別には、南部の天津・志賀、湖北地域に偏重している観光客の全体的な誘致施策が課題

「一般行楽」に含まれる一つの要素である滋賀県下にて点在する温泉資源活用による施策が課題

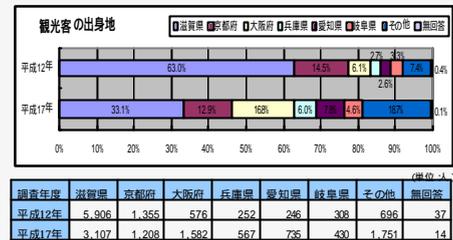
(4) 観光動態調査から見た現状

観光客の県内居住者を除く出身地では、大阪府が最も多く、次いで京都府、愛知県、兵庫県、岐阜県の順となっている。また、その年齢層を見ると56歳以上が最も多く、次いで46歳～55歳で中高年層が半数以上を占める状況となっており、この結果は今後団塊の世代が定年退職を迎えるとともに観光ニーズがより高まるものと言われていることから、滋賀県観光の更なる増加が期待できるという点では好感できる。しかし、18～25歳、26～35歳、36～45歳といった若年層および壮年層が減少、特に25歳以下の若年層が大幅に減少している点が大変気がかりな結果となっている。

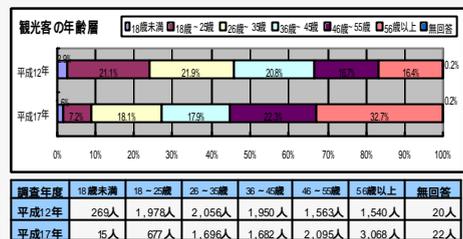
一方、来訪した観光客に滋賀県への観光回数を見てみると、県内在住の者を除き6回以上という層が大幅に増加している結果が出ている。このことから判断すると、他府県から滋賀県へのリピーター率は大変高く、しかもその回数も非常に多いことがわかる。なお、県内在住者の数が大幅に減少した要因はこの調査だけでは判断できないものの、他府県からの来訪で、「初めて」または「2回目」と回答した人も増加していることから、これらの層をいかに複数回来訪させるかが今後のカギとなってくる。

(5) 滋賀県観光資源のSWOT分析

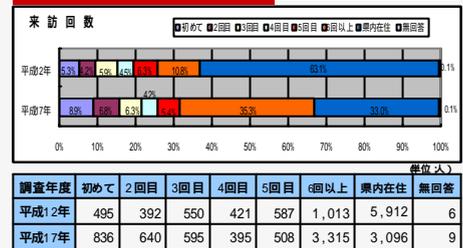
滋賀県への観光客の出身地



滋賀県への観光客の年齢層



滋賀県観光のリピーター率



クロスSWOT分析と展開策の提言

	強み	弱み
機会	<p>四季ごとに4地域の特徴を活かしたスポーツ・運動月間を設ける。その期間中は、活用できる施設や設備の情報提供を重点的に行う</p> <p>自然を活かした健康教室、家族教室を開催し、ファミリー層が安く長く楽しめるようにする</p> <p>その人にあった運動を医療機関や健診センターで評価し科学的に健康増進を図る</p> <p>サイクリングやスポーツを初心者から上級者まで楽しめるようマニュアル作りや指導を行う</p> <p>シニアリッチ層の期待に応えられる設備、サービスを提供する</p>	<p>温泉旅館やホテルが、地域のスポーツ施設や健康増進施設と連携し、送迎や予約、情報提供を行い、小地域活動として観光客を誘引できる魅力作りを行う</p> <p>温泉街らしい雰囲気作り、街づくりを行う</p> <p>夜間にできるスポーツや施設を利用できるように行政や地域で取り組む</p> <p>県民が健康増進のためのスポーツや運動に取り組むための啓蒙活動や住民への支援を行う</p> <p>大阪 - 名古屋の中間地点としての道の駅で温泉を活用し疲れをとってもらおう</p>

# クロスSWOT分析と展開策の提言

	強み	弱み
脅威	<p>何度も来てもらえるように、4地域の特徴を明確にする。 四季を通じて様々なファミリースポーツや運動ができるよう情報提供や環境を整備する 安全に、かつ本格的に家族でスポーツが楽しめるよう指導する人材育成と環境整備を進める 大阪や京都とは異なったコンセプト、キャッチフレーズを全国に浸透するまで発信する。 (例：近江商人・三方良し) 安近短の良さに徹底する</p>	<p>若年層のなかを細分化し、若年のファミリー層に絞ったマーケティングを行う。 若年ファミリー層が、安全・安心・安価に楽しめる支援策を、行政、民間団体等が連携して提供する 大阪 - 名古屋の中間地点としての道の駅で温泉を活用し行き帰りの疲れをとってもらい宿泊客の増加を期待するだけでなく、まずは滋賀県内へ来てもらう、また来てもらった人に滞在時間を延ばしてもらうため、足湯パブリックスペース、夜間客向けのサービスステーションを各4地域で拠点整備を行う 県民の運動増進活動にホテル・旅館やスポーツ団体等、および行政が利用券やポイントを提供する</p>

## (6) 観光戦略の基本コンセプト

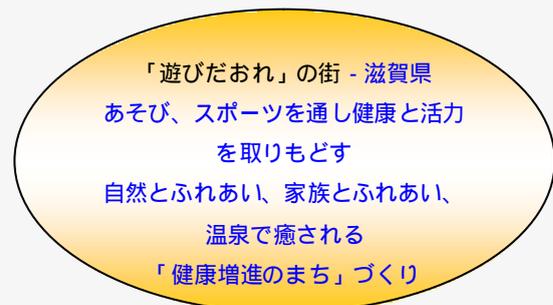
大阪は「食いだおれ」の町として、庶民の味から高級料理、世界各国の料理が集まり、厳しい競争環境のなかで、「うまいもん」を提供している。京都は、「着だおれ」の町として、呉服屋が全国で最も多く、街中でも着物女性を多く見かける。観光客向けには、舞妓衣装のサービスなど「着だおれ」コンセプトを活かした活動が行われている。

滋賀県はというと、全県の代名詞となるコンセプトは見当たらない。滋賀県 = 「びわこ」という反応は非常に多いが、「びわこ」はモノであって、コトではないことから、次の基本コンセプトを提言することとした。

「遊びだおれ」とは、テレビゲームや環境に悪影響を与えるような遊びではなく、琵琶湖や瀬田川などでのボート、カヌー、ヨット、比良山や伊吹山などの山登り、ハイキング、湖東三山サイクリング、びわこウォーキング、などを中高年者が気兼ねなく楽しめることである。当然、中高年者だけでなく、若者ファミリーも、小さな子供も一緒に楽しめる安全、安心で本格的なスポーツを楽しめる県となることである。スポーツをすれば汗をかく。また疲労もある。そこで、各地域に点在する温泉や旅館・ホテルを利用してもらい、心身ともに<癒し>を提供することを意図した。

滋賀県観光の最も多い目的は、「癒し、休養」である。さらに、社会保障改革の方向は、個人の健康増進、疾病予防に重点がおかれるようになってきた。健全な「遊び」を家族連れ、中高年の方々に、四季を通じて提供し、何度でも来れる滋賀県を作れると考えた。交通の便がよいことは、大阪、京都、兵庫だけでなく中部方面からもリピーターが期待でき、従来は、数時間の観光や日帰りで帰る観光客も、スポーツや遊びを体験し、食事や温泉を利用することで滞在時間が延長する。滞在時間の延長は観光戦略の第一歩で、宿泊客の増加も滞在時間の延長上に期待できる。

## 観光戦略の基本コンセプト



「創業10周年の感懐“不傷肩背不能成善賈”」

.....プロフィール.....



中小企業診断士 豊島正利

経歴

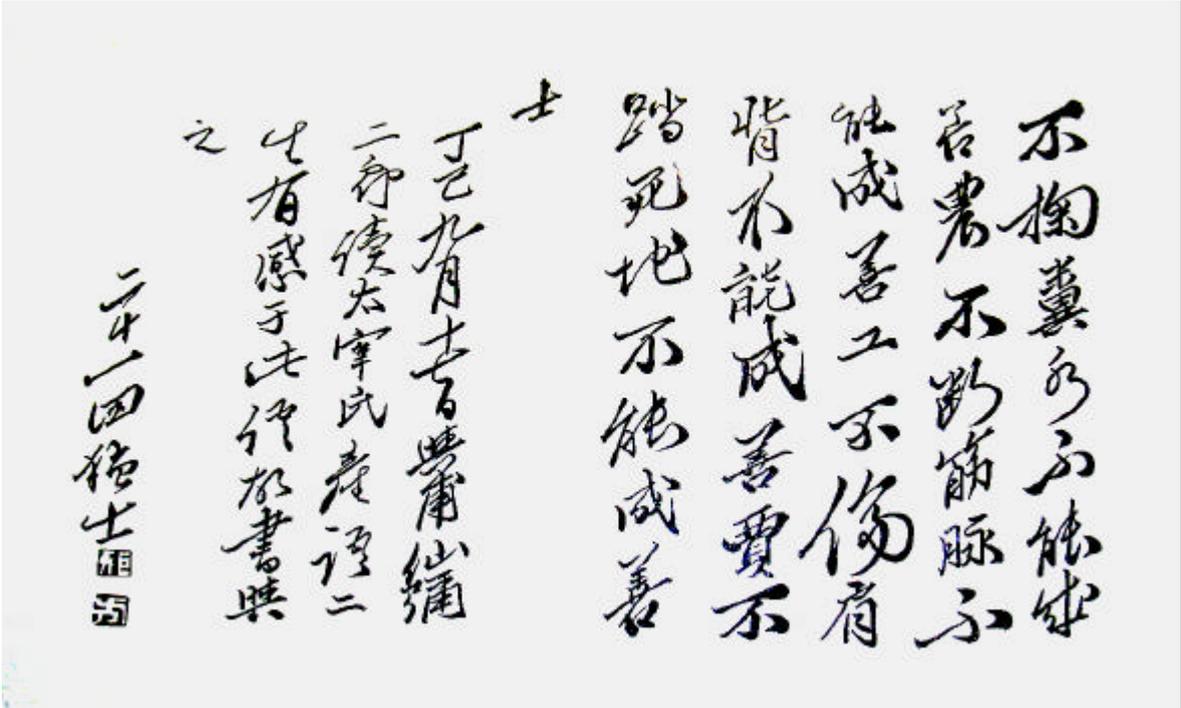
日本 IBM で、情報管理、新商品企画、品質管理等に従事。龍谷大学で教授経験もある。1997年11月 有限会社豊島コンサルティングを設立、代表取締役役に就任。ISO9001、14001 の認証取得支援を中心に活動している。

資格

- ・ 中小企業診断士（工鉱業部門）・技術士（経営工学部門）
- ・ ISO9001:2000 主任審査員・ISO14001 審査員補
- ・ 経営学修士（MBA）

1. はじめに

中小企業診断士として登録してから32年、会社勤めを辞し、独立創業し法人化して10年が経ちます。その感懐をまとめるに当たり、きっかけとなった幕末の志士、吉田松陰の筆跡写真を紹介して話を進めてまいります。



不掬糞水不能成善農（糞水を掬せないようであれば、善農となることはできない）  
 不断筋脉不能成善工（筋脈を断じないようであれば、善工となることはできない）  
 不傷肩背不能成善賈（肩背を傷めないようであれば、善賈となることはできない）  
 不蹈死地不能成善士（死地を踏めないようであれば、善士となることはできない）

丁巳九月十七日 甫仙、弥二郎と太宰氏の「産語」を読む。

二生此語に感有り、故に書してこれを与える。

二十一回猛士（吉田松陰）

これは、太宰春台の「産語」の中に出てくる言葉です。吉田松陰が甫仙、弥二郎とこの「産語」を読んだ際、感銘を受けた二人に対し松陰が書して与えたものです。

太宰春台(だざいしゅんだい)は、江戸時代(1680年~1747年)中期の儒学者です。信濃飯田生まれで本姓は平手、太宰氏の養子。江戸春日町に居す。元禄7年(1694)但馬出石藩主松平忠徳に仕え、同13年致仕し、五畿を放浪。この時荻生徂徠門下の安藤東野と交わり、江戸で徂徠門に入ります。門下には詩文に長じた服部南郭がいます。太宰春台は力を経済学に注いだ人として名を残しています。

## 2. 不傷肩背不能成善賈(肩背を傷めないようであれば、善賈となることができない)

今から3年ほど前の2004年から1年にわたって左肩の痛みが体にありました。今思いますと体調が徐々に変化する時期に当たっていたものと思われる。いわゆる五十肩といわれるものでしょうか。その痛みをおしてノートパソコンと当時流行のプロジェクターを肩にISO9001の導入支援に忙しくしていた頃です。

阪神大震災の日に個人として独立し10年、“不傷肩背不能成善賈(肩背を傷めないようであれば、善賈となることができない)”の例えのように、パソコンを担いで肩背を痛めたからこそ一人前の商売人になれたのだという気持ちになりました。そこで再び吉田松陰の書を取り出して、改めて「産語」のコピー部分を読み下し文にまとめた次第です。

## 3. 不蹈死地不能成善士(死地を踏めないようであれば、善士となることはできない)

「産語」のなかで「土」について、“死地を踏めないようであれば、善士となることはできない”とっています。中小企業診断士にとって死地とはどんな状況をいい、死地をくぐってきた診断士のなかの善士とはどのような土をいうのでしょうか。日々研鑽し顧客(中小企業の経営者)に対して助言・指導することと理解して間違いないでしょう。そうであれば助言・指導のみで死地をくぐることができるのでしょうか。よくよく考えなければならぬ事柄のように思えてきます。

実際の現場に多く出かけ、現場の実情を理解し、現場の目線で考えて「土」の力を振り絞った助言・指導が求められる時代になっています。対象とする分野が多様化している状況下では、分野ごとの死地をくぐらなると力量の向上と顧客満足は得られないのではないのでしょうか。

## 4. 不断筋脉不能成善工(筋脈を断じないようであれば、善工となることはできない)

また工場技術者についても同様のことが言えると思います。「産語」では、“筋脈を断じないようであれば、善工となることはできない”とっていますが、ものづくりの職人の世界では筋肉やスジを痛め断じような修行の中から善工が生まれることを示唆しています。ほとんどの工場はME(メカトロニクス)化され、NC化やロボット化が進む工場では、もはや筋脈を断じような経験を積み上げ、善工となる機会はほとんどないようです。この工場における技術業務も診断士の対象分野と同じく多様化しており、1つの技術業務につき時間をかけて経験し高めていくことはほとんど無いと言ってもよいほどです。単に作業員として時間単価削減の対象となつて久しいようです。気が付けば工場内は「外国人+高齢者+パート+派遣+請負」ばかりになり、工場の非正社員化が急速に進んでいます。その一方で、ものづくりの重要性が叫ばれ固有技術の伝承が問題になっていますが、不安が残ります。それでも少子高齢化が進む社会にあって、ものづくりの現場で働く人の能力開発、人材育成は人的資源の有効活用の点からも避けて通れないわが国の中小企業の大きな問題ではないのでしょうか。

## 5. 60歳からの学び

### (1) 境遇の自得

冬になれば、「木落ち水尽き千崖枯れて、迴然天地の真吾が現れる」ように、人間も年寄るに随って、容色は衰え、矯飾は廃れて、其の人の真実我が掩う所無く現れてくる。誠に人の晩年は一生の総決算期で、其の人の真価の定まるときである。名や理や色に熱中し、人に勝とう凌ごうと焦り瞋り猜み悶えるようなことは此の頃になって段々雲や霧の霄（は）れる様に薄らいでゆかねばならぬ。老来肝要のことは一「淡」字上に在る。（安岡正篤著「東洋倫理概論」）

会社勤めなら60歳が一般的な定年ですが、コンサルタントの仕事には定年はありません。中小企業診断士として気力・体力もふくめて総合的力がなくなったときが廃業の時でしょう。しかし60歳以降で力量があると自分自身が思っている、外からの評価に耐えることが優先すると考えています。そこで私は、還暦を過ぎて私自身の生活態度についてこれまでを評価反省し、今後のことについて考えてみました。その結果、これからのことについては基本的には謙虚に学ぶ以外にないのではないかと考えた次第です。仏教の書物にも「老いてまどいなきは、少壯勤学の功による。臨末にも心みだれざるは、平生修善の力なり」といっている。

### (2) 報謝の生活

報謝の生活の大切さについて安岡正篤は次のように記しています。

「親は人に取ってもっとも直接的な造化の現れであり、その造化の生成化育に対するおのづからなる感謝報恩の心の発動が孝行で、孝行こそ誠に百行の基である。誠は天の道である。之を誠にするは人の道である。之を誠にするとは、天地に参じてその道を賛け成すのである。

但参贊と謂う時は要するに知的に反省して居るのであるが、それは実際の生活においては必ず天地に対する感謝報恩の行でなければならぬ。感謝報恩の心に由らずして真の参贊は無い。深く感謝報恩の心を抱くほど人は真に力を尽くすことができるのである。何となれば感謝報恩の心はすなわち天地の生成化育の働きを最も純深に体得する所に動く情意であるからである。我々は此の天地の中に在って無量の恩恵に生きて居るのである。」

報謝の生活を送るには、日ごろから感謝の心を持ち、欲を離れ、静かに生活する工夫が必要だと思います。その工夫の一つとして古典に親しみ、意志を励ます文章を折に触れて書き留めてきました。次に慈雲尊者の本から抄録したものをいくつかあげます。

正しうして災難の来ると云ふは、喜悅すべきことじゃ。又思いがけない福のあることは、心に慎むべきことじゃ。得ては後に禍がくるものじゃ。

大人の大人たる所は、意気揚々の処にはなくて、志性温良の処にあるじゃ。その楽放逸歡樂にはなくて、謹慎篤実の処にあるじゃ。一度の麤言、一度の傲慢、みな災害の兆と知るべし。

不貪欲戒も護持せねばならぬことじゃ。この戒に随順する者は、夜も安穩じゃ。昼も安穩じゃ。家居も安穩じゃ。遊行も安穩じゃ。無病長寿じゃ。独居しても憂いなきじゃ。世に交わりて災害無じゃ。無漏聖道の因縁となるじゃ。

この正法の処より看れば、天地も全く不貪欲戒の姿じゃ。日も中すれば傾く。月も満つれば欠く。物盛んなれば衰ふ。草木も、花のうるはしきものは果（このみ）がならぬ。

人間も全く不貪欲戒の姿じゃ。生ずるとき唯独り生ずる。衣食玩具を持って生るる者もない。死するとき唯独り死する。衣食玩具をもち去る者もない。思えば面白きことじゃ。

### (3) 老いることは楽しむこと

ある人の言葉の中に次のような佳語を見つけました。「老いることは楽しむことであり、人生を楽しむ人になりましょう。終わりが来るからこそ、今の生き方をもっと楽しく、最後まで自分らしくというのが本来の福祉であり、介護ではないかと思っている。いかに人生を楽しむこと、上手に遊ぶこと、自分らしく生きることが、社会的にもコストを落とすことにつながる。別の意味での社会的貢献である。」人生最後まで自分らしく生きるためには、人によっていろいろなアイデア、やり方があるとおもいます。このことが私の一番の課題であると思っております。

## 6. おわりに

吉田松陰が二人の青年と「産語」を読み彼らの求めに応じて書いた書が150年余りの時空を超えて、わたくしが関心を持ったというこの機縁を大切にしたいものです。参考までに四不四不能の前後の文章を紹介して終わります。

「四体勤めず、餬口遊食し、歳をもてあそび、日を無駄にすごし鰥寡孤独癡疾ではないのに、乞人とともにその行いを同じくするのは、鳥獸と同じようなものではないか。これは恥ずべきことの大きなものである。故に人はもって食を求めなければならない。これを求めるためには道がある。食を得ると得ざるとは固より命であり、これを求めないで食を得る者は幸いではある。しかし幸いであるがそれは福ではないのである。

食というものは、人の生きるための方法である。いやしくも生ある者は食する理由を知らずしていいものだろうか。天子より庶人に至るまで食する所以有らずになびく。故に食する所以を知らずして食することは、これを素餐（そさん：職務を怠ってただ俸禄をもらっていること）と謂う。素餐は君子のにくむところである。詩に云う。彼の君子は素餐せず。小人にして素餐は君子に罪を獲る。君子にして素餐なれば罪を天に獲る。仲尼曰く「罪を天に獲れば祈るところ無し」と。どうして畏れないでいられない。

稷丘丈人、其子に語って曰く。

糞水を掬せないようであれば、善農となることはできない  
筋脈を断じないようであれば、善工となることはできない  
肩背を傷めないようであれば、善賈となることはできない  
死地を踏めないようであれば、善士となることはできない

勞する者の食は甘いものだ。事する者の居は安し。人必ず餓えて後、食を求めることを知る。寒を体験した後、衣を求めることを知る。窮した後、生を治めることを知る。困った後で身を修めることを知る。賢智者有るといえども、いまだ嘗て餓寒窮困しなければ生を治める所以を知ることは無い。これゆえに餓寒窮困ということは、人のこの身を善する所以である。なんぞこれをにくむのか。それ人は必ず餓寒窮困のにくむべきことを知っている。しかる後、よく餓寒窮困のにくむべからずを知る者は未だ餓寒窮困のにくむべからざるを知らず。未だかつて、餓寒窮困せずといえども卒われば必ず餓寒窮困して、しかる後、そのにくむべきを知り人生を終えるのみである。

故に患うに至ってこれを救う。予防の裕には若かず。人の患うところ餓寒に近くは無し。故に人のすべからくするところは、衣食に先んじるものはない。一日生を治めざれば未だその損を見ざるといえどもこれを積みば則ち必ず一日の餓寒あり。若し一日の餓寒の忍ぶべからずを知れば、何ぞ生を治めずして一日を以て可といえようか。

これゆえ天子万機をもって生を治める。諸侯は一国の政事をもって生を治める。大夫はその官職をもって生を治める。士より以下、各々その事をもって生を治める。庶人の業、農工商賈、皆生を治める所以なり」

## お知らせ

(社) 中小企業診断協会

### 平成 19 年度「中小企業経営診断シンポジウム」開催のお知らせ ～地域資源を活かして地元を元気にする中小企業診断士～

(社) 中小企業診断協会では、平成 19 年 11 月 16 日(金)に、グランドプリンスホテル新高輪において、平成 19 年度「中小企業経営診断シンポジウム」を開催いたします。

第 1 部では、地域の食材をいかして数々のヒット商品を生み出しているフードコーディネーターの大原一郎氏による基調講演と、コンサルタントや経営者、行政機関という異なる立場のプロフェッショナル 5 名が討議し、今後の地域活性化のあり方を探るパネルディスカッションを実施します。

第 2 部では、「シンポジウム論文発表」「研究論文・支援事例発表」をはじめ、東京支部による「経営支援及び研究成果発表」「協会 / 会員活動事例等発表」によって、最新の経営診断事例やノウハウを数多く公開します。また、第 1 部の参加者の関連企業を中心とした地域の物産展も同時開催します。

多数のご来場をお待ちしております。



ポスター案

平成 19 年 11 月 16 日(金)  
10:00 ~ 18:30  
定員 800 名 (参加費無料)

#### < 開催プログラム >

##### 第 1 部

- 10:00 ~ 10:20 開会
- 10:20 ~ 11:05 基調講演 地域資源を『宝物』にする秘訣(仮)  
フードコーディネーター大原一郎氏
- 11:15 ~ 12:30 パネルディスカッション  
地域資源パワーアップ! 地域発提案  
三宅曜子氏(株)クリエイティブイズ代表取締役社長)  
岸本吉生氏(経済産業省中小企業庁経営支援課長)  
岡本良知氏(株)岡本亀太郎本店専務取締役)  
大原一郎氏(フードコーディネーター、(有)オーツ代表取締役)  
平野陽子氏(中小企業診断士、経済産業省地域中小企業サポーター)

##### 第 2 部

- 13:00 ~ 16:20 (第三分科会、第四分科会は、13:30 開始)
- 第一分科会 シンポジウム論文発表
- 第二分科会 研究論文・支援事例発表
- 第三分科会 東京支部発表(経営支援及び研究成果)
- 第四分科会 協会 / 会員活動事例等発表  
地域中小企業政策提言(東京支部)  
診断協会入会案内  
実務従事事業紹介  
地域物産紹介 他
- 17:00 ~ 18:30 表彰式 / 懇親会

場所 :グランドプリンスホテル新高輪 JR 京浜急行品川駅から徒歩 10 分、都営地下鉄浅草線高輪駅から徒歩 6 分  
(お問い合わせ先 )

(社)中小企業診断協会 会員事業部 〒104-0061 東京都中央区銀座 1-14-11 銀松ビル

TEL :03-3563-0851 FAX :03-3567-5927

東京支部 〒104-0061 東京都中央区銀座 2-10-18-7 F TEL :03-5550-0033 FAX :03-5550-0050

能力開発推進部 小黒 E-mail: [oguro@mqb.biglobe.ne.jp](mailto:oguro@mqb.biglobe.ne.jp)

地域中小企業活性化支援部 相楽 E-mail: [mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp](mailto:mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp)

会員の消息 (平成 19 年 5 月 ~ 平成 19 年 8 月)

<入 会> 北村 健 ( 6 月新規入会 )  
老邑 克彦 ( 7 月新規入会 )  
青山 誠司 ( 7 月大阪支部より移籍 )  
西村 良隆 ( 8 月新規入会 )

<退 会> 9 月 10 日現在 無

( 広 報 委 員 会 )

田村 正

豊島 正利

稲田 忠夫

浅井 治善

中村 実